

平成 30 年度「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：33061

学校名：市立札幌開成中等教育学校

改訂のポイント		<p>○教師、生徒、保護者が、学ぶ目的として「学ぶ力」の伸長をより重視すること</p> <p>○「学ぶ力」をIB/MYPの学習の方法(ATL)を用いて指導、評価すること</p> <p>○学習の方法(ATL)指導計画の立案と実施</p>		
項目名	項目内容	項目内容の具体		
目標	「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像	<p>☆「どうしたらもっと良く学べるか」を問いながら学習に向かう生徒</p> <p>☆「自分の学習成果をどのように評価することができるか」を意識して振り返りや他者との学び合いに向かう生徒</p>		
「学ぶ力」に関する成果や課題	学ぶ意欲	<p>【昨年度の具体的な取組】</p> <p>IB/MYPの原則に基づいた単元計画とその実践</p> <p>各教科等で共通した学習の方法(ATL)の育み</p> <p>○自己管理(情動スキル:自己動機づけ)</p>	<p>【成果】</p> <p>肯定的な回答が多い質問は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校で好きな授業がある」⇒91.5% ・「授業中、自分で疑問やめあてをもって学習に取り組もうとしている」⇒92.1% ・「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがよくある」⇒88.9% 	<p>【課題】</p> <p>◇差別化・個別化による学習支援</p> <p>◇自己動機づけの研修</p> <p>◇インクルーシブな教育に関する研修と実践</p>
	思考力・判断力・表現力等	<p>【昨年度の具体的な取組】</p> <p>IB/MYPの原則に基づいた単元計画とその実践</p> <p>各教科等で共通した学習の方法(ATL)の育み</p> <p>○思考(批判的思考、創造的思考、転移)</p> <p>○コミュニケーション(情報を集め、やりとりするために、言語を読み、書き、そして用いる)</p> <p>○リサーチ(情報リテラシースキル:情報を見つけ、解釈し、判断し、創造する)</p>	<p>【成果】</p> <p>全教科において単元の最終的課題の多くはレポートである。その内容の変容から年間を通した思考力・判断力・表現力の伸長を評価する教師の声は多い。また、生徒の自己評価において、表現力の高まりを実感する内容も多く見る。</p>	<p>【課題】</p> <p>◇質問「授業中、自分の意見を進んで発表している」に対し否定的な回答が48.4%</p> <p>◇不確かな引用参考文献・WEBの選定</p> <p>◇創造や議論などの学習活動に対応する思考力・判断力・表現力の育み</p>
	基礎的・基本的な知識及び技能	<p>【昨年度の具体的な取組】</p> <p>IB/MYPの原則に基づいた単元計画とその実践</p> <p>各教科等で共通した学習の方法(ATL)の育み</p> <p>○コミュニケーション(情報を集め、やりとりするために、言語を読み、書き、そして用いる)</p> <p>○リサーチ(情報リテラシースキル:情報を見つけ、解釈し、判断し、創造する)</p> <p>○思考(転移)</p>	<p>【成果】</p> <p>知識の暗記ではなく活用(レポートや発表、ディベートや話し合い)が求められるので、生徒自身が必要感をおぼえて知識を取り入れようとしている。結果として基礎知識の定着率がよいのではないかと考える。</p>	<p>【課題】</p> <p>◇質問「今の自分にとって、どのように勉強するのが良いかわかっている」に対し否定的な回答が39.2%</p> <p>◇基礎的な知識・技能の評価方法</p>

今年度の具体的な改善策（取組）	取組の最重点	<p>【取組の共有】</p> <p>AB 共通：教師は授業を通して生徒が身に付けた MYP の学習の方法（ATL スキル）について具体的なフィードバックを定期的に行い、形成的評価を提示する。</p> <p>A：「どうしたらもっと良く学べるか」を自らに問い学習に向かう生徒の育成</p> <p>B：「自分の学習成果をどのように評価することができるのか」を自らに問い、協働学習や振り返りを通して学習を進める生徒の育成</p>
	具体的な改善策（取組）	<p>○昨年度実施した各教科の Unit Planner（単元計画）において、評価計画などに重点をおいて更新する。</p> <p>○協働的な学習場면을重視し、個々の発言が促進され、互いを高めるような学習環境の整備を行う。</p> <p>○生徒が学習の方法（ATL スキル）を意識して学習にのぞみ、振り返ることができる学習環境の整備</p> <p>○生徒の学習活動についての情報収集と分析を含め、その活動に対して時宜を得たフィードバックを提供するような評価プロセスを重視する。</p> <p>○総括的な評価課題と形成的評価が密接につながるよう単元計画及び評価計画を立てる。</p>
検証の方法	各種調査や子ども自己評価指標の活用	<p>○生徒が授業終了時と単元終了時に取組む「振り返り」の分析</p> <p>○生徒が一週間単位で予定や行動の記録を記載する「Schedule Planner」の分析</p> <p>○自己評価の継続的实施と分析</p>